

2010年

雪国の豊かな暮らし

国交省が美麻で実証実験

国土交通省は15日から、「冬の住まい方に関する実証実験」を、大町市美麻地区で行う。実験は24日までの10日間、地区内に住む60から80代の5世帯6人が、二重市民農園交流促進センターで集団生活し、血圧測定や体操などに参加。地域住民や自治会が、雪かきや見回りなど留守宅を管理する。

国交省は「雪国の豊かな暮らし継承方策調査」の一環として実験を実施。「冬の住まい方」と「郷土による地域除雪」を柱に、各2箇所全国の雪国で調査を行う。(2010.2.7)

135年「誕生日」祝う

135年「誕生日」祝う



美麻市誕生112年を記念する「美麻市135年」の話を。ただし、「シ」ではなく「イチ」、直売所を交流の場と位置づけた新しいイベントが幕を開ける。

旧美麻村が135年を迎える1日、「美麻市(イチ)」誕生の記念式典が大町市美麻青のぼかぼかランド美遊で開かれた。旧村の節目の「誕生日」を祝い、人々が交流し触れ合う場としての「市(イチ)」を通して地域を盛り上げていくことを誓った。(2010.4.3)

直売所交流の拠点に

大町市美麻の地区住民有志らでつくる「美(うま)し村(さと)開拓協議会」は4日、「美麻市(いち)の初回を道の駅ぼかぼかランド美遊で開いた。

オープニングは源流美麻太鼓の演奏で幕を開け、初代市(いち)長の合津富吉さんが歓迎のあいさつ。地区内や市内各地から15のブースが出店され農産物の販売やバナナの叩き売り、うどんや農家カフェ、足湯などでにぎわう会場で、来場者や出店者が触れ合い楽しんだ。(2010.4.6)

初夏の高原音楽満喫 まぼろしの池菜の花ライプ

大町市の中山高原の菜の花畑で16日、まぼろしの池「菜の花ライプ」が開かれた。同高原キャンプ場前に雪解け後のみ現れる。「荒池」の周囲に数千人の来場者が集い、青空の下で音楽の演奏や地場産品の出店などを囲んで春の高原を満喫した。荒池のわきに組み込まれたステージでは近隣の6組のバンドや美麻源流太鼓などが演奏。(2010.5.18)



国際姉妹校に調印

美麻小中学校とメンドシノK8スクールで国際姉妹校を調印し、今後の永い交流を確認した。調印式は現地時間の18日午後5時(日本時間の19日午前)からメンドシノクラウンハウスで行われた。100人以上が集う中、両校が理解や友好のきずなを深め、文化に尊敬の念を持ち豊かな教育を進めることを合意した。

国際姉妹校に調印

美麻小中とK8スクール



日本側は、荒井教育長と山浦校長ら、メンドシノ側は行政のキャサリン・ストーン教育幹、K8スクールのブロウイン・ローデス校長、交流実行委員会のマイク・エバンズ代表が登場し、協定書にサインした。(2010.5.21)

過疎対策を考える

過疎対策について考える大町市の美麻、八坂地区地域づくり委員会の初の合同会議が27日、大町市役所で開かれた。市民アンケートなどを基に、両地区が連携した事業の提案や過疎対策について話し合った。(2010.8.26)

美麻地区で敬老会

大町市美麻地区の敬老会(実行委員長 津滝修身・美

麻地区社会福祉協議会長)はこのほど、ぼかぼかランド美麻で開いた。地区の74歳以上の高齢者106人が招かれた。保育園児や養老劇団のアトラクションで長寿を祝った。同地区の菜の花畑で養蜂している東京都の人見吉昭さんが、美麻で採れたはちみつを高齢者一人ひとりに初めて寄贈。美麻地区食生活改善協議会は、手づくりの赤飯を提供した。(2010.10.9)

公開収録ネットで中継

美麻地区の文化祭は23、24日の両日ぼかぼかランド美遊で開催した。ケーブルテレビの番組オオマチミアサ・テレビの公開収録を通して、地域の住民のさまざまな活動を紹介。手作りの番組をインターネット生中継で世界へ発信した。(2010.10.25)



2011年

あしたのまちづくり 活動賞 受賞を報告

全国で地域づくりに取り組み団体を表彰する平成22年度「あしたのまち・くらしづくり活動賞」で、主催者賞を受賞した大町市美麻の地域自治組織「美麻地域づくり会議」（合津富吉会長）は、21日、牛越徹市長を表敬訪問し、受賞を報告した。



牛越市長は「合併前から熱心に討議を重ね、その上に合意形成し実践につなげた今日までの努力が評価されたのではないかと。情報発信の取り組みなど、広く市に普及できれば、ぜひ成功事例となつてほしい」と激励した。

誰でも更新できるインターネットのWikiや、旧村から引き継いだケーブルテレビなどを通して地域の各団体で情報を共有し、朝市イベントやメンドシーノ交流などの活動を盛り上げてきた点が評価された。(2011.2.4)

創造的な公民館活動を

大北地域の公民館関係者が一堂に会する第44回大北公民館大会が25日、大町市立美麻小中学校など会場に開かれた。源流美麻太鼓による演奏、美麻メンドシーノ交流ボランティアネットワーク会長の前川浩一さんによる「異文化とのかかわりや人々との交流」と題した発表、市教育長の講演などがあつた。(2011.6.26)

友情30年の節目祝う

大町市と姉妹都市メンドシーノとの姉妹校流30周年式典と、来日していた相互交流訪問団とのお別れ会が4日、美麻の青具ふれあいセンターで開かれた。訪れた150人余の市民らが長く続く交流の節目を祝い、最後の夜に別れを惜しんで友情を確認した。(2011.7.6)

小学生が安心マップ

大町市美麻でボランティア交流体験プログラム「夏休みお手伝いし隊」に参加する小学生17人は2、3日の両日、災害時や通学時に役立つ「新行地区の安心マップづくりに取り組んだ。(2011.8.6)

移住促進へ現場の声



阿部守一県知事と、大町市の地域自治組織、美麻地域づくり会議と八坂地域づくり協議会との意見交換会は8日、大町市美麻支所で開いた。県の移住・交流施策推進に向け、地域で移住者や交流人口の増加に取り組んでいる事例を聞いた。(2011.8.10)

白いソバの花満開

「おひさま」舞台にきわむ 放映中のNHK連続テレビ小説「おひさま」の舞台として知られる大町市の中山高原

で、ソバの花が満開を迎えた。「おひさま」人気を受けて観光客の姿も多く、地産品の出店にはぎわい、県外ナンバーの車も並んでいた。27日には約1000人、28日には約1500人が訪れたという。(2011.8.30)



美麻ふれあいまつり

大町市美麻地区の住民交流を図る「美麻ふれあいまつり」は27日、美麻総合福祉センター（梨嶺）駐車場で開いた。今年には施設利用者だけでなく、一般住民も参加しやすいうようにと、恒例だった「梨嶺まつり」から名称を変更。家族連れなど約150人の来場者でにぎわった。



まつりは地域の絆を深めようと、地区社協や美麻支所、公民館、地域づくり会議が実行委員会を立ち上げ開催。協賛した地元事業所が、おやきやそばなど地元ならではの商品をゲームの景品として提供し盛り上げた。(2011.8.30)

被害増えるも共存願

猟友会美麻支部が鳥獣供養祭

大町市の大北猟友会美麻支部（田中三郎支部長）は、10日、鳥獣供養祭を旧役場跡地で営んだ。美麻地区では、昨年から地区で農地を守ろうと、住民が免許を取得して入会。昨年は8人、今年新たに8人が猟の免許を取得し、計19人の会員で活動している。本年度は、イノシシ22頭、シカ24頭、クマ1頭をはじめ、サルやタヌキ、ハクビシンなどを捕獲した。慰霊祭には猟友会員や関係者約20人が参列し、玉ぐしをささげた。(2011.11.15)



2012年

手づくり和紙で証書



みあさ保育園（中村祐子園長）では、きりん組9人の年長園児が卒園式を迎えた。自分たちですいた手づくりの和紙でつくられた卒園証書を園長から受け取り、会場を訪れた保護者に「ありがとう」と手渡した。

和紙づくり体験は、地域に伝わる紙漉きの伝統を体験させたいという保護者の希望で、美麻地域づくり会議の協力で「美麻市」内の行事と合わせて昨春秋に実施。松崎和紙の指導を受けて、親子で紙をすきあげた。(2012.3.25)

メンドシーノ魅力知る

米国カリフォルニア州メンドシーノを、5月11日～18日に訪問する美麻小学校5、6年生23人が9日、事前学習を行った。

今回は2回目の事前学習で、

中学時代にメンドシーノから美麻を訪問し、8年前に1年間大町高校に留学したチエルシー・ロビンソンさん（23）
Ⅱ石川県在住Ⅱを講師に迎えた。チエルシーさんは自分のホームステイ体験を紹介しながら、スライドを利用して対話形式で質問を受けた。(2012.4.13)

姉妹校太鼓演奏で交流

メンドシーノの国際交流で、現地を訪問している美麻小学生を中心とした訪問団は現地時間の15日、現地最終日の交流を行った。「国際姉妹校」のメンドシーノK8スクールでは太鼓演奏を披露し、現地の子どもたちから喝采を受けた。



大鼓の演奏では、練習を重ねた5曲を披露米の子どもたち

が入り交じって太鼓をたたき、会場は大いに盛り上がった。(2012.5.20)

美麻ジビエ工房しゅん工



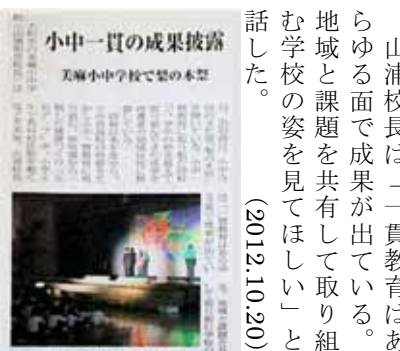
大町市美麻の美麻ジビエ振興会（種山博茂会長）が運営する食肉加工解体施設「美麻ジビエ工房」で12日、しゅん工式が開かれた。同日朝、完成後初めての動物がわなにかかり、初仕事が行われた。作業にあたった会員たちは「せっかくもらった命、地域活性化のためにしっかりと役立させてもらいます」と包丁をおろしていた。

解体されたのは体重50kg以上の雌ジカ。同日朝、新行に仕掛けたワナにかかっていたのが見つかった。同施設は中信地区初の処理施設。シカやイノシシを中心

とした有害鳥獣の駆除にあたり、食肉を無駄なく特産化することで継続した駆除活動につなげる。農作物保護と地域活性化を願って、県の支援金の補助を受けて造られた。(2012.7.14)

小中一貫の成果披露

大町市の美麻小中学校は、19、20日の両日、小中合同の文化祭「梨の木祭」を開いている。小中一貫教育に取り組む同校で、学年の枠を超えて取り組んできた成果を保護者や地域住民に披露している。同校は本年度から、小中併設校の特徴を生かし小中一貫教育に取り組む。保育園から一貫した「元氣アップ」や、小学6年生で教科担任制を敷くなどを実施。



山浦校長は「一貫教育はあらゆる面で成果が出ている。地域と課題を共有して取り組む学校の姿を見てほしい」と話した。(2012.10.20)

鳥獣対策 地域の課題実感

大町市の美麻小中学校（山浦和彦校長、小学生56人、中学生38人）で12日、シカ肉を使った「美麻ジビエカレー」が給食で提供された。



地域の鳥獣被害防止の取り組みを実感し、命をいたしたい。地元の猟友会などで組織する美麻ジビエ振興会（種山博茂会長）がおろしたシカ肉9kgを子どもにも食べやすいようにと工夫し、調理したカレーがテーブルに並んだ。児童や生徒はジビエ振興会員や地域の関係者らと席を囲んでスプーンを口に運び、「いつものカレー肉と違う」「歯ごたえがあっておいしい」と笑顔で皿を空にしていた。(2012.12.13)

2013年

定住促進などの項目

美麻地域づくり委が市に要望

美麻地域づくり委員会（竹内彰会長）は20日、牛越徹市長に意見書を提出した。定住対策やぼかぼかランド美麻の活性化、水道・ケーブルテレビの市街地との格差是正など6項目について求めた。

定住促進に関しては、空いている教員住宅の有効活用や市営住宅の払い下げ、子育て世代への住宅使用料の減免などを望んだ。本年度は6回の会合を通して議論し、要望をまとめた。(2013.2.23)

一貫校に向け小中合同



美麻小中学校では、小学校1年生に平井千秋さん(6)、江津和稀くん(6)の2人、中学校1年生にあたる7年生には、10人が入学した。新入生を代表して7年生の海端奈

月さん(12)は「美麻小中がひとつにまとまった仲間となるよう頑張りたい」と抱負を述べた。

同校は、小中併設を生かし、昨年から4・3・2制の区分けで学校教育を考える9年制を導入。一貫校化に向けた第一歩として、入学式を合同化した。

(2013.4.5)

地域参加型の学校づくり

八坂美麻地区に組織発足

大町市は20日、定例記者会見を市役所で開いた。児童生徒数の減少が進む八坂・美麻地区において、地域の特性を生かした学校づくりを地域とともに進める組織を発足すると発表した。

美麻地区では国の研究指定校となっており、併設校を生かした小中一貫教育化や通学区の拡大などを検討する。

荒井今朝一教育長は「少子化が進む中、地区と一緒に進んで開かれた学校づくりをどう実践していくかに取り組みたい」と話した。(2013.5.21)

青空の下競技楽しむ

大町市美麻地区の運動会が26日、美麻小中学校校庭で開



かれた。さわやかに晴れた空の下、かけっこや玉入れ、綱引きなどの競技を楽しんだ。(2013.5.28)

美麻小中「ごみゼロ運動」

美麻小中学校4年生から中学3年生63人は28日、「ごみゼロ運動」を行い、通学路に落ちているごみを拾った。自分たちが暮らす地域をきれいにし、郷土を思う気持ちを育んだ。



ごみゼロ運動は、児童・生徒が郷土を大切に思い環境への関心を高めるようにと、同校が南北統合した昭和52年から続く伝統行事。中学校生徒会の緑化体育委員会を中心に毎年取り組んでいる。

緑化体育委員長の手塚健太郎(15)は「みんなたくさん集めてくれて、地域をきれいにする意識は高い。きれいな地域であってほしい」と話していた。(2013.5.29)

山村留学を経験

大町市八坂小学校の5年生と、同美麻小学校の4年生はこのほど、八坂で山村留学を行う財団法人育てる会の八坂美麻学園に泊まり、それぞれの学校へ通う通学合宿を行った。子どもたちは4泊5日寝起きを共にし通学。普段交流のない他校の児童や、山村留学の異学年の児童らとも交流を深めた。(2013.6.8)

コンクールに向け苗仮植

美麻小中学校の中学生らが13日、同校で取り組むフラワール・ブラボー・コンクールに向けて、花花集会を開いた。(2013.6.15)

「夢をつかもう!」体験語る

美麻小中学校は17日、ノルディックスキーツールピック選手会の萩原健司さん(43)を招き、講演会を行った。4年生から9年生までの児童・生徒58人と、教諭や保護者、地域の人も含めて約100人が、「夢をつかもう!」と題した講演を聴いた。



コミュニケーション力の向上や人間形成を目指す「美麻市民科(いちみんか)」の授業の一環として行われた進路講話。講演を聞いた9年生の宮田翔平君(14)は「進路に迷っていたけれど、自分の好きな鉄道関係の仕事を目指してみようかな」と笑顔を見せていた。(2013.6.20)

色とりどりの花畑描く



色とりどりの花畑描く
美麻小中美術祭向けワークショップ

木崎湖を中心に、大町市内各所の会場を結んで開催する「原始感覚美術祭（神原三保子実行委員長）」に向けて、美麻小中学校で28日、美術作品を全校の子どもたちが描く、ワークショップが行われた。約80人の子どもたちが、美術家の青島左門さん（32）とともに、色とりどりの花畑を描いた。

3年生の北村莉央風さん（8）は「梅やクローバーの形の花などいろいろ描きたーい」と、ブルーの絵の具を布に滑らせていた。（2013.7.3）

美麻小中一貫校検討

美麻小中学校コミュニティスクール推進委員会（宮沢雄一会長）は2日、第2回合会を美麻支所で開き、小中一貫

のコミュニティスクール実現に向けた検討事項について話し合った。

今後定期的に入学児童の少ない年が想定され、平成32年には入学者がゼロ、児童生徒数は44人と試算。1学年の人数が10人以下では共同的な学びが充実しないと、家族の定住促進や特認校制度による学区の市内全域への拡大、山村留学の受け入れ農家を増やすなどの案が出された。

（2013.7.4）

夢追う大切さ伝える

美麻小中学校で5日、日本サッカー協会のJFAこころプロジェクト「夢の教室」が開かれた。

元サッカー日本代表の水沼貴史氏（53）が講師を務め、小学5、6年生25人にチームワークや夢を追いかける大切さを伝えた。（2013.7.7）

「元気」願い贈り物

美麻児童クラブはこのほど、美麻総合福祉センター梨嶺のデイサービス利用者の高齢者に、手作りのシャカシャカ袋をプレゼントした。1年生の平井千秋ちゃん（6）は「初めて縫い物をしたけど、うまくできた。おじいちゃんおばあちゃんたち、いつまでも元気でいてほしい」と笑顔を見せた。（2013.9.2）

あちゃんたち、いつまでも元気でいてほしい」と笑顔を見せた。（2013.9.2）



高校生の交換留学提案

大町市の姉妹都市、米国メンドシーノから来日している訪問団23人は9日、牛越徹市長を表敬訪問し、市役所や市議会を見学した。今後のさらなる交流発展に向けて、高校生の交換留学実現を目指す案が挙げられた。



訪問団のマイク・エバンス代表は「双方興味がある学生

が、1年間の交換留学の機会を取れるようになることを望む。時間がかかることだが、価値のあるプログラム」と述べた。訪問団の子どもたちは、プログラムが実現したら参加してみたいと手を挙げていた。（2013.7.10）

伝統文化を継承



伝統文化を継承
美麻小中「アビと麻」

美麻小中学校で23日、伝統文化継承体験「学びと麻」が行われた。美麻地域づくり会議（宮沢雄一会長）と、美麻青具の小林つや子さん（79）、宮沢直枝さん（82）の2人を講師に、かつて同地域の冬の手仕事だった麻（お）煮、麻はぎ、麻かきを体験した。同校が取り組んでいる美麻市民科の授業の一環として、8年生（中学2年）麻研究班5人が中心となり企画。まきを使う専用の釜での麻煮を見学し、麻の皮を剥ぐ麻はぎ、剥いだ麻を繊維に加工する麻かきは全校生徒が体験した。

麻研究班の大塚歩夢君（14）は「イベントで見たこ

とがあり、麻かきに興味を持った。実際麻煮から体験してみても、結構時間もかかるし、思ったより難しかった」と話していた。（2013.8.27）

風渡るフィールド銀輪駆ける

「大町美麻ロードレース大会」は11日、大町市美麻の特設集会コースで開かれた。風渡るフィールドを、無数の銀輪が駆けた。（2013.8.14）

敬意表し長寿祝う

美麻地区敬老会が20日ほかカランド美麻で行われた。75歳以上の地区内のお年寄り約100人が訪れ長寿を祝った。

来場者を代表し、最高齢の竹内孝行さん（93）Ⅱ大塩Ⅱと、小林義子さん（94）Ⅱ二重Ⅱが、保育園児から記念品を受け取った。（2013.9.21）

